

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 29 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530236

研究課題名(和文)環境駆動型資本主義のビジョンと政策

研究課題名(英文)Visions and Policies on Ecologically driven Capitalism

研究代表者

橋本 努 (Hashimoto, Tsutomu)

北海道大学・経済学研究科(研究院)・教授

研究者番号：40281779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：「環境」駆動型の資本主義の思想的基盤を、自然主義と開発主義の思想的な緊張関係と融和関係を踏まえて、経済思想の観点から発展させた。はたして環境を保護する政策は、それがいかなる場合に資本主義の新たなエンジンを提供するのか。またその場合の資本主義は、いかにして雇用を創出し、そのための人材教育を提供するのか。環境の保全と資本の運動について、市民の新たな感受性を養うと同時に、政府の政策的指針につながるビジョンを、現代の経済思想論議を踏まえて探究した。

研究成果の概要(英文)：This project developed studies on philosophical foundations on “ecology” driven capitalism based on recent arguments on economic thought, especially on arguments of naturalism and developmentalism. Such policies as protecting environment can become a driving force of capitalism and produce more employment at the same time. To promote the protection of the environment and the capital accumulation, what kind of policy the government can pursue? I described a new vision and proposed some ideas on policy making.

研究分野：経済思想

キーワード：環境 資本主義

1. 研究開始当初の背景

「グリーン・ニューディール」という概念は、ここ数年のあいだに現実の政策へと受肉化してきた。その分析は、環境経済学や自然諸科学の分野(とりわけ工学)といった実証的な研究において精力的に成果が上げられたものの、思想的な探究はいまだ深化しているとはいえない。

これまで、環境をめぐる問題は、産業政策論の研究者や社会運動の担い手、あるいは工学的なアイデアをもつ技術者たちによって、勢力的に探究されてきた。環境の問題について、これまで、アンドレ・ゴルツやエイドリアン・リトルらが脱産業社会の方向を示し、産業主義に駆動されない社会を模索してきた。こうした研究方向には長所と短所があり、長所は、そもそも福祉国家そのものが産業主義の装置であった点を解明し、また、エコロジカルな感受性を労働のモチベーションとして示すような思想を示している点である。ところが短所は、体制全体の新たなモデルを提示していない点であり、これに対して基本所得アプローチや、環境自由主義、環境市民-共同体主義などの思想は、体制の問題をもっと実効的な次元で検討している。

これらの思想のなかで、資本主義の駆動因を提供するのは、とりわけ環境自由主義であるといえるが、総合的な検討が必要である。その場合に問題となるのは、持続可能性を掲げる場合に、「何の持続可能性か」であり、それはいかなる資本を維持・促進するかという問題と表裏一体である。自然を資本と考え、また自然環境に対する人間の感受性を「福祉=効用」の観点から捉えるなら、環境へのアプローチはまさに、資本を駆動するための新たな方向を示す任務を負うことになる。

2. 研究の目的

本研究が課題とする環境資本主義の可能性は、いわゆる学説史や思想史の研究とは異なり、経済思想の諸パラダイムそのものを転換するという、知の新たな企てを試みる潮流のなかにある。環境の経済思想は、さまざまな政策の実証分析を踏まえつつも、その過程において生じる政治・経済的諸問題の規範理論的検討にとりくみ、環境を大切に活動が、たんなる倫理的満足や政治の駆け引きを超えて、経済的な正当性をいかにして持ちうるのか、またそのための制度的構想はいかなるものかについて探究する。その際、本研究は、とりわけ、世界規模の環境問題に対処するための規範的理念として掲げられる「環境危機」の問題を、環境経済思想と資本主義の産業政策という、二つの異なる視座から、理論的に探究していきたい。中心問題となるのは、次のような原理的問題である。すなわち、「世界の環境問題をいかにして理解するか、いかにして解決しうるか、そしてその解決を促すための思想的視座と世界秩序構想はいかなるものか」。この問題に対して本研究は、

既存のアプローチとは異なる「環境駆動型資本主義」という観点から、新たな理論構築を試みる。

3. 研究の方法

本テーマの関心は、環境を保全しながら資本主義を駆動するための技術であり、実践であり、また思想理念である。この問題は理論的には、従来の市場自由主義的発想を非市場(例えば二酸化炭素排出量)へと拡張する局面と、市場自由主義にリベラルな制約をかけようとする「環境自由主義」、そして、市場自由主義の周辺ないし対抗的立場から自然を回復しようとする社会的企業家の行動理念など、いくつかの関係において重層的に把握する必要がある。これまで、資本主義の駆動者とは、勤勉な労働者や、市場競争で切磋琢磨する会社員をモデルとしてきたと言える。これに対して、資本主義の寄生者とは、勤勉な労働を拒否する人々や、市場競争を否定する人々であったと言える。しかし現代において、寄生者とみなされてきた生き方が実際には資本主義を駆動する倫理的な資本を提供している可能性がある。

その可能性とは、環境感応的な感性を培う人文的教養であり、環境経済の思想は、これまで人文科学が提供してきた諸々の環境思想に学び、その意義を「環境駆動型の資本主義」へと結びつけるための総合的な理路を示さなければならない。現代の資本主義は、環境技術によって新たな段階へと向かうことが期待される点では、技術革新に主導される資本主義を展望するものであろう。しかしたんなる技術革新は、資本主義を新たな段階へと導きえないのであり、新しい環境技術に感応する知識と感性、そして人文的教養をもう一つの資本としなければならない。そのような環境感受的な教養=人的資本を、私たちはいかにして経済の新たな論理へと結びつけるのか、ということが問われている。

このような関心から、本研究では、具体的には、環境問題の現実を「二酸化炭素排出量」や「フードマイレージ」、あるいは「ハイブリッド自動車の普及率」などの観点から検証し、これらの統計に表れる消費者の様々な生活スタイル、あるいは政府の行動理念について、分析する。あるいはもっと事態を詳細に見るなら、ある環境技術の開発が、市民活動の場面で、どんな言説とともに導入され、使用され、普及していくのか、という問題を的確に捉え、実践における技術と環境倫理の結びつきから、既存の環境思想がもつ可能性を改めて捉え返してみたい。

本研究の主要な特徴は次の二つの点にある。第一に、これまで対立する思想とみなされてきた環境主義と資本主義の二つが「環境駆動型の資本主義」というモデルにおいて、いかにして両立し、また拮抗するのかという点を明らかにする。そして第二に、いくつかの統計指標から、環境保全的な活動が、どんな言

説によって支えられているのか、またその支え方として、既存の(あるいは現代の)環境思想がいかなる貢献をなしているのか、を明確にする点である。本研究の意義は、従来の経済思想史が軽視してきた環境問題へのアプローチを総合的に探究し、環境駆動型の資本主義社会にふさわしい理念とその教育的・教養的な含意を提示するという点にある。

現在、急速に進むグローバル化の流れの中で、経済思想の研究は、世界的にみて大きな変容を遂げつつある。総じて言えば、イギリスや大陸ヨーロッパの先進諸国では、思想史研究から現代の思想研究へと移行し、新たな諸学の融合の中で、規範論的な問題を正面から探究するという果敢なアプローチがみられる。ところが日本における経済思想の研究は、学説史的なものに留まる傾向があり、現代的な含意は少ない。これに対して本研究は、これまでの基礎研究を踏まえつつ、環境経済思想の新たな探究を試みたい。

4. 研究成果

当初の計画では、平成 23 年度において、三つの課題を掲げた。第一に、環境問題の指標の分析とそのテーマをめぐる実践の言説を研究すること。この課題については、一応の検討を終えている。次年度はその成果を公表したい。第二に、人文諸学の伝統にある環境思想のなかから、現代のグリーン・ニューディール政策全般に意義深いと考えられる諸理念・諸思想を検討することを課題としたが、これについても一応の検討を終えている。第三に、これらを踏まえて、現代の環境駆動型の資本主義を担うにふさわしい教養のあり方を模索し、環境経済思想として提示すること、という課題を掲げたが、このテーマについては、すでに、さまざまな媒体でその成果を公刊する機会を得た。初年度である平成 23 年度は、主としてこれら三つの課題について、そのための資料収集を目的としていたが、その目的を達成するだけでなく、成果の一部を公開することができた。

指標に基づく環境問題の分析については、単著『ロスト近代』においてさまざまな形で示すことができた。また、環境運動の現実の分析という課題については、遠野まごころネット主催の被災地ボランティアへの参加、ならびに、北海道大学経済学部におけるディベート大会(テーマは原発は是か非か)を通じて、主として学部における演習をベースにしつつ、一定の成果と達成を得た。自然エネルギーの固定価格買取制度の問題の探求と、この制度がいかにして環境駆動型の資本主義のビジョンと結びつくのか、またこの制度がいかにして新自由主義の思想的ビジョンと結びつくのかについての探究については、同じく単著『ロスト近代』を通じて、あるいはその一部である論文「グリーン・イノベーション論」において、詳細に明らかにすることができた。また二酸化炭素排出量の取引を含

めて、環境のための人工市場や環境技術の導入が、いかにして環境駆動型の資本主義のビジョンと結びつくのか、という問題についても、同書において明らかにした。当初予定していたもう一つの研究、すなわち北欧型の新自由主義についても同様に、単著『ロスト近代』においてその分析の中心を理論化し、公表することができた。

平成 24 年度には、公開シンポジウムや新聞や雑誌やラジオなどを通じて、広く社会のなかで情報発信することができた。環境運動の現実の分析という課題については、奥尻島における被災地の取り組みの見学や、北海道大学経済学部におけるディベート大会(テーマは北海道における都会暮らしと田舎暮らしの優劣をめぐる比較)を通じて、主として学部における演習をベースにしつつ、一定の成果と達成を得た。平成 24 年度は、当初計画した北欧型の新自由主義というモデルについて、経済学史学会第 77 回全国大会(5月 25 日)におけるセッション「現代福祉国家思想の再検討」を組織し、また司会者を務めるかたちで、一定の成果を得た。さらに同モデルについて、経済社会学会の全国大会にて、フランスにおける現代の新自由主義批判の動向を検討するという趣旨の研究報告を行なった。

本研究全体として当初、環境問題の指標の分析とそのテーマをめぐる実践(環境保全活動)の言説を研究すること、人文諸学の伝統にある環境思想のなかから、現代のグリーン・ニューディール政策全般に意義深いと考えられる諸理念・諸思想を検討すること、

これらを踏まえて、現代の環境駆動型の資本主義を担うにふさわしい教養のあり方を模索し、環境経済思想として提示すること、という三つの研究目標を掲げたが、いずれも単著『ロスト近代』において一定の成果をあげた後に、国内外の学会報告、論文、新聞、雑誌、インタビュー、等によって、さらにその内容を掘り下げることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 4 件)

経済社会学会第 48 回全国大会 --大会テーマ「3.11 後の環境と経済社会」2012 年 9 月 1 日-2 日 北海道大学にて開催。大会実行委員長を務める。

Hashimoto Tsutomu “ Ideological Categories in Economic Thought ” (Session 4: Religion, Ethics and Economics, Session Chair: John Vint) at Annual Conference of History of Economic Thought in Australia, on 4th, July, 2013, at University of Western Australia, Business School, HETSA 2013.

橋本努「新自由主義概念の変容」経済社会
学会第49回全国大会、2013年9月21日-22
日、大阪商業大学

橋本努(日本学術会議第一部連携会員、北
海道大学大学院経済学研究科教授)「ロスト
近代の時代認識とその思想資源」日本学術会
議公開シンポジウム「モダニティの再規定
ポスト近代を超える時代認識」2013年10月
13日(日) 慶応大学(日本社会学会大会会場)

〔図書〕(計1件)

橋本努[単著]『ロスト近代 資本主義の
新たな駆動因』弘文堂 2012年5月刊行

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.econ.hokudai.ac.jp/~hasimoto/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 努 (Hashimoto Tsutomu)
北海道大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：40281779

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：